

第5回 多摩市再生可能エネルギー事業化検討協議会 議事録		番号	H25 議 005
		頁	1/2
議 題	1. 開会あいさつ 2. 議事・報告 ①PPP 専門委員会報告 ＜各報告について意見交換＞ 3. 事務局より その他 連絡・共有事項	日 時	2013年12月10日(火) 17:45～20:00
		場 所	多摩信用金庫 多摩センター支店 Win プラザ多摩センター
		出 席 者	水上貴央、桃井和馬、山川陽一、浦野卓男、戸辺文博、須永修通、町井則雄、古田将太、小池冬紀、稲垣憲治、磯貝浩二、江川美穂子、秋元孝夫、武内喜則、大木貞嗣、林久美子、高森郁哉、山川勇一郎、田中功、他 (順不同、敬称略)
議 事 資 料	・平成25年度多摩市再生可能エネルギー事業化検討協議会 第5回 次第 ・第4回多摩市再生可能エネルギー事業化検討協議会議事録(案) ・PPP 専門委員会検討業務報告 閲覧資料:①推定発電量について ②事業シミュレーション設定条件表(Case1)、(Case2)、(ゆいま～る聖ヶ丘採算試算) ③公共施設一覧表		
議 事 内 容 (要 約)			
<p>1. 開会あいさつ (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回議事録について確認依頼後に確認され、次回協議会で確定版を提出となった。 ・本日は PPP 専門委員会に絞った議論を行う。 <p>2. 議事・報告</p> <p>【PPP 専門委員会報告】</p> <p>委員長より「今回は多摩市の施設の内、どの案件までやるのかということのを会議として承認することで本日臨時会(第5回)を開催した。判断の基準となる事業シミュレーションについてその考え方を含め説明してもらい、全案件についてその判断を聞き会議体としての結論を得たい。」との趣旨説明があった。</p> <p>■事業シミュレーションについての報告 (山川委員より閲覧資料を基に説明あり)</p> <p>＜以下、委員による質疑応答＞</p> <p>質問1: ゆいま～るの借入金の金融機関が2つあるが、物件は1つか?</p> <p>応答1: 物件は3つ(3棟)たまでん債はそのうち1棟に充て、たましんは2棟分、売電収入も分けている。</p> <p>質問2: ケース1収支表で、一般管理費と販売管理費が年度毎に違っているがどういうことか?</p> <p>応答2: 事業規模の増加に伴い、これらも累積して増えて行くので、年度毎に小さくした。</p> <p>質問3: ケース1(当初見込み)とケース2(最悪のケース)の違いは?</p> <p>応答3: ケース2は、ケース1と売電単価は同じだが、設備容量が小さいため工事単価が高くなり、累積赤字が続き、キャッシュフローがショートする時期が発生する。累積当期利益も20年目には黒字になるが、余裕のない事業になる。</p> <p>委員長: 基本的にはコスト構造が変わらないなら、収益額の多寡に関わらず収益率は変わらないはず。しかし、ケース2で収益率が悪くなる理由の1つは工事単価で、規模が増えないので下がらない。もう1つは一般管理費で、これは固定費であるため規模が大きくなると下がらない。そこが違い。</p> <p>質問4: 固定資産税減免措置があるはずだが、想定しているか?</p> <p>応答4: グリーン投資減税があり、13年度に設備投資した場合に固定資産税が3年間2/3になる。ゆいま～るの計算には織込済だが、13年度の他の物件は未確定なので全体計算には織り込んでいない。</p> <p>質問5: たまでん債の予定配当率(2%)の根拠は? 収支バランスを鑑み、配当率を見直す選択肢はあるのか?</p> <p>応答5: 継続的に資金調達するためには、無配当の寄付などだけでは成り立たないとの考えの元で、配当率2%は他の類似ファンド例や長期国債の1.5%を参考に設定した。そこに信託報酬(1.1%)が加わるので利率は3.1%になる。全体の収支バランス上、金融機関からの借り入れが比較的金利安の為、配当率を見直すより、資金調達全体におけるたまでん債の割合を下げる方向で対処する。</p>			
～ 次ページへ ～			

～ 前ページより ～

■個別案件について

委員長より「今回のメインテーマである公共施設の物件について議論したい」との発言を受け、専門委員より公共施設（23 物件）の調査結果の説明があった。その上で、23 物件のうち 11 物件が基準以上で、本協議会での検討対象物件としたい、旨の報告があった。

<以下、質疑応答>

質問 1：多摩市の物件は他にはないのか？

応答 1：市の施設の内、新耐震基準以降の建物で、建物の建築面積が 1,000 m²以上あることを基準に選び、今回の検討案件とした。

質問 2：廃校グラウンドのフェンス代は予算的に大丈夫か？

応答 2：東京電力の見解で 1 発電所毎に区画設定が必要なため、4 つに分割して囲む事を想定しているが、学童などが近くで遊ぶので、しっかりした柵が必要と認識している。詳細は今後検討予定。

質問 3：市営住宅の屋根は、アスファルトシングルなので、10～15 年で改修が必要だが、その費用はシミュレーションに入っているか？

応答 3：陸屋根については、大規模修繕の対応費用をシミュレーションに織り込み済み。金属屋根は必要でないので改修費は計上なしと物件毎に違いがある。尚、上記改修時のパネル移動、改修期間中の売電停止による減収も織り込んでいる。

質問 4：屋根改修期間中のパネルなど資材保管費用などは状況によって変わるため、想像以上にお金がかかる現場はないか？（※関連部署によると、学校では原則 3 ヶ月程度の工事期間が必要で、校舎から降ろす必要がある）

応答 4：陸屋根、金属屋根の場合は問題ないが、アスファルトシングルの場所は 2 か所なので、採算的には大丈夫だろうと考えている。

質問 5：ケース 1 の表で工事単価 28 万円/kW だが、11 物件の内 28 万円より高いもの安いものは？

応答 5：総合評価 A の 2 物件は上記条件で設置可能との認識。総合評価 B はゆいまー並み (29.5 万/kW)。

委員長：整理すると、総合評価 A は採算は合うが、それ以外は詳細見積の上、減税措置が見込めないものについては一般管理費の低減等コスト削減努力が必要ということ。

■案件の確定

委員長：23 件の案件について調査プロセスの説明があり、個々の事業性の詳細は未確定のものがあるものの、11 物件を選んだ合理性はある。コスト構成・コスト低減の見直しは今後の継続検討事項とし、今回の協議会の結論を出したい。

質問 1：23 物件の表で、耐用年数が 20 年未満のものがあるか？

応答 1：耐用年数はそれぞれだが、問題ないものを選んでいくという認識。Q&A にあるように 20 年未満の解約については保障金を支払うことを前提に宥議にかけるとの予定。

委員長：本日は議論が深まったと思う。（見積が確定していない）市営住宅 B は市営住宅 A とほぼ同じコストでできる場合を条件とし、11 物件を協議会で推薦するという事で採決を取りたい。

<全員の挙手で承認された>

委員長：工事単価を 28 万円にするには、今後の努力が必要。今回決まった 624kW を基に 28 万円に近づけるにはどうしたら良いか、またそれができない場合は、他のコストをどう下げるかなど、コストのせめぎ合いになるが、次の段階に進めて継続的な検討をお願いする。

3. 事務局より

・次回（第 5 回）日時：1 月 16 日(木) 17 時 30 分～（終了後新年会開催予定）

場所：たましん事業支援プラザ

以 上